＜ 結 果 の 概 要 ＞

１　出　生

（１）　出生数は１０，３０６人で、前年より１４４人増加し、３年連続１万人台を維持した。

出生率（人口千対）は８．６で前年より０．１増加した。

（２）　出生数を母の年齢（５歳階級）別にみると、２０歳代後半で５３人減少し、２０歳代前半で３０人、３０歳代前半で５５人、３０歳代後半で５０人、４０歳代前半で４９人の増加となっている。

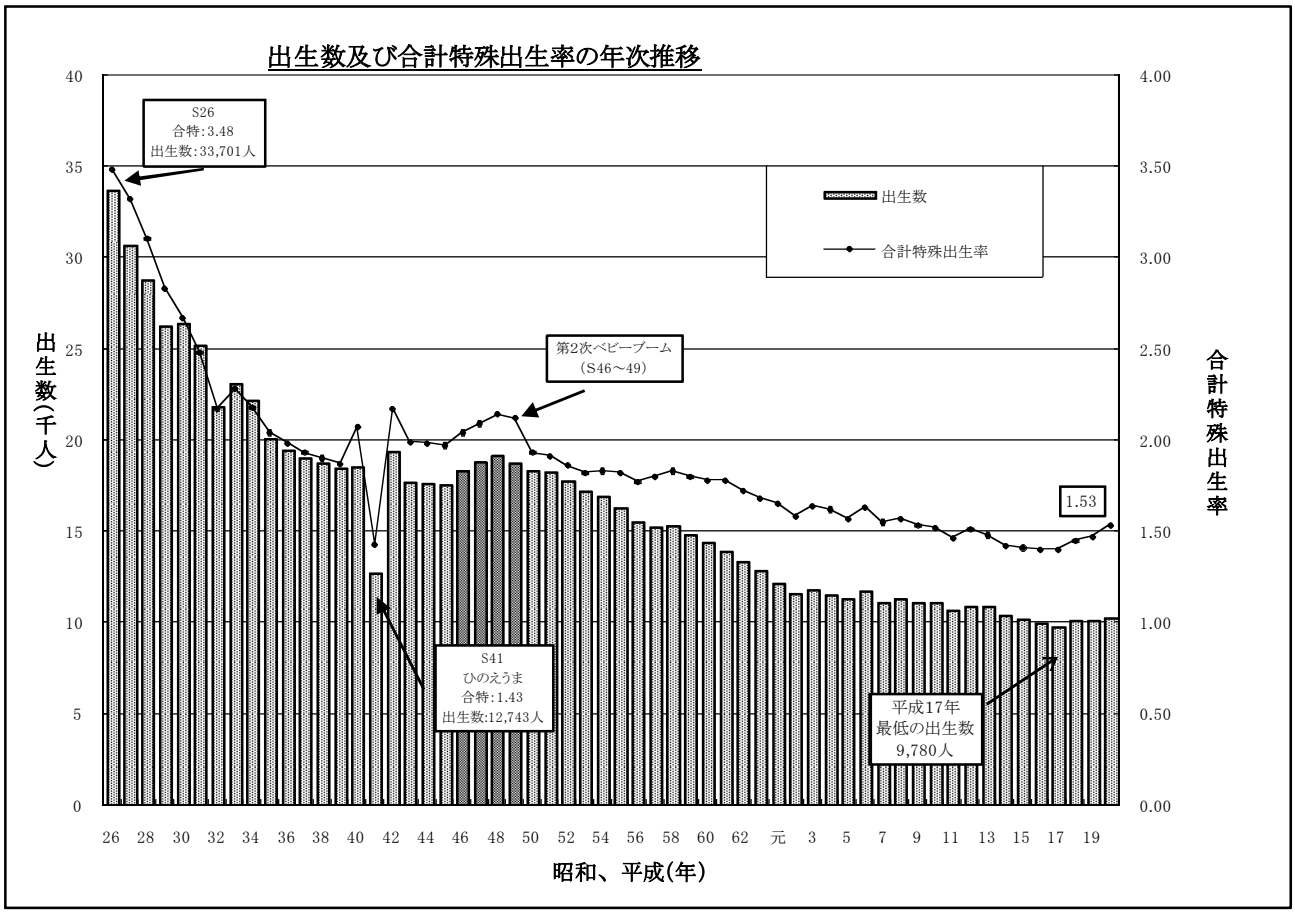
年齢階級（歳）	出生数 20年	出生数 19年	増減
～14	0	0	0
15～19	161	153	8
20～24	1,380	1,350	30
25～29	3,238	3,291	△ 53
30～34	3,695	3,640	55
35～39	1,571	1,521	50
40～44	251	202	49
45～49	10	5	5
合計	10,306	10,162	144

２　合計特殊出生率

合計特殊出生率は、１．５３で前年の１．４７を０．０６上回った。

これは３年連続の上昇である。

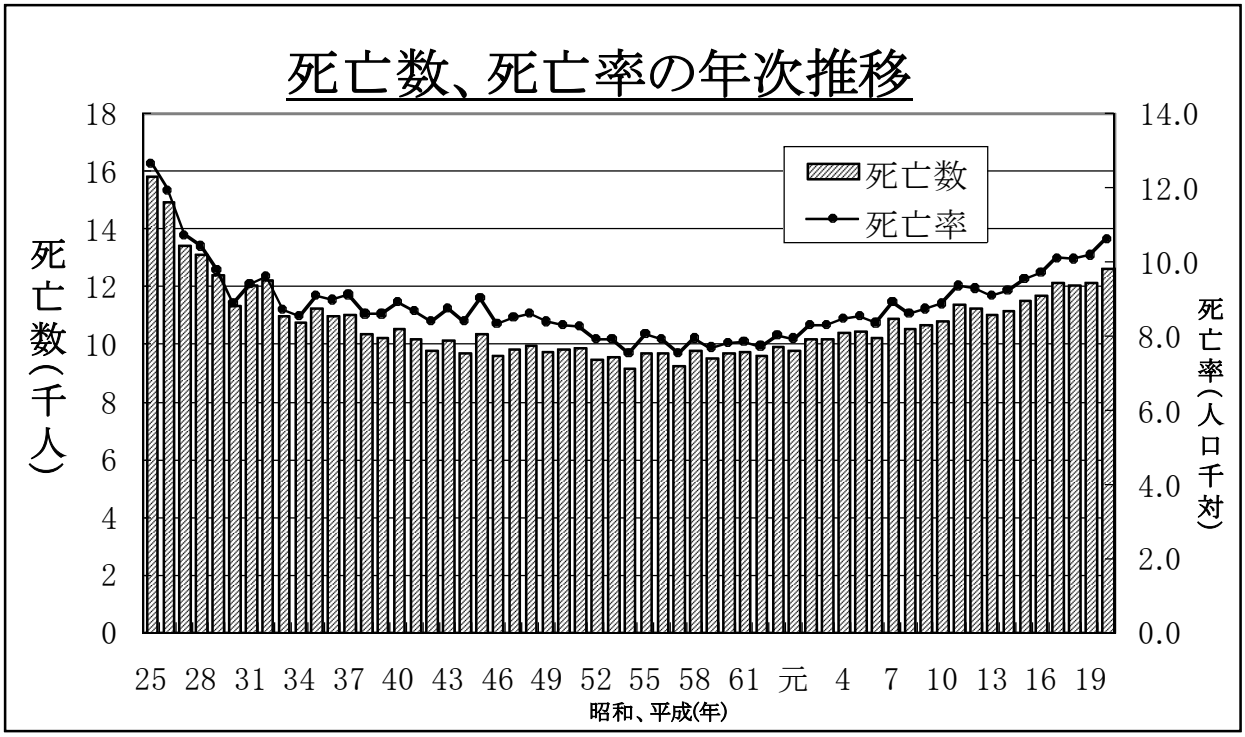
なお、全国の合計特殊出生率も前年の１．３４より０．０３上回り、１．３７であった。



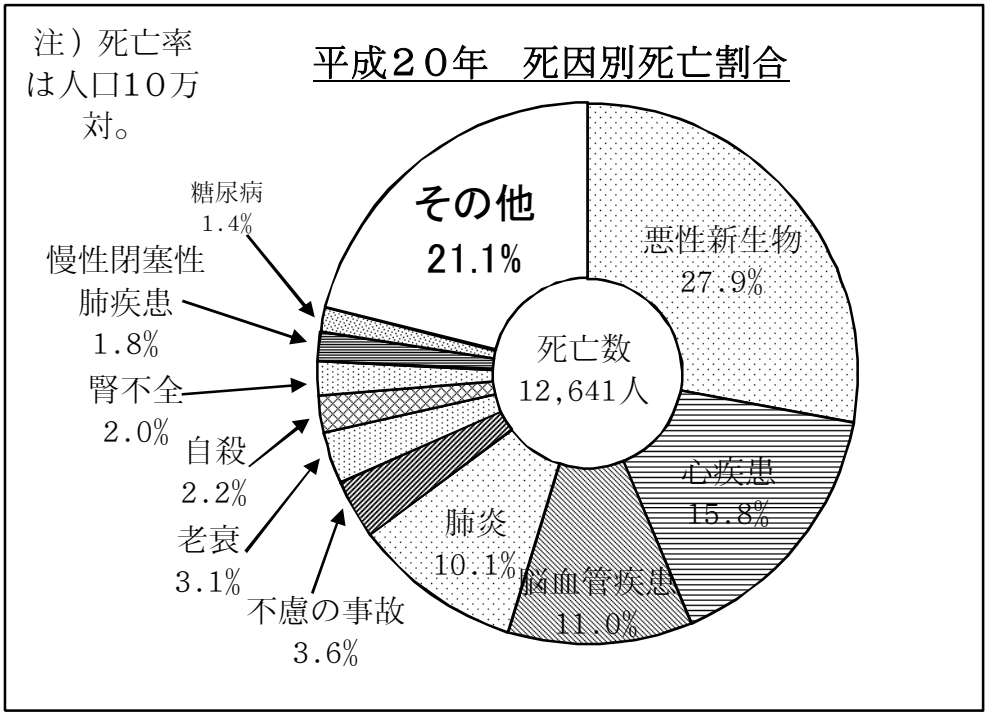
３　死　亡

（１）　死亡数は、１２，６４１人で前年より４５３人増加した。

死亡率（人口千対）は、１０．６で前年の１０．２より０．４増加し、その年次推移を見ると、昭和５０年代後半以降、上昇傾向にある。



（２）　死因順位についてみると、第１位は悪性新生物（２７．９％）、第２位は心疾患（１５．８％）、第３位は脳血管疾患（１１．０％）で、この３大死因が、死亡数の過半数（５４．７％）を占めている。

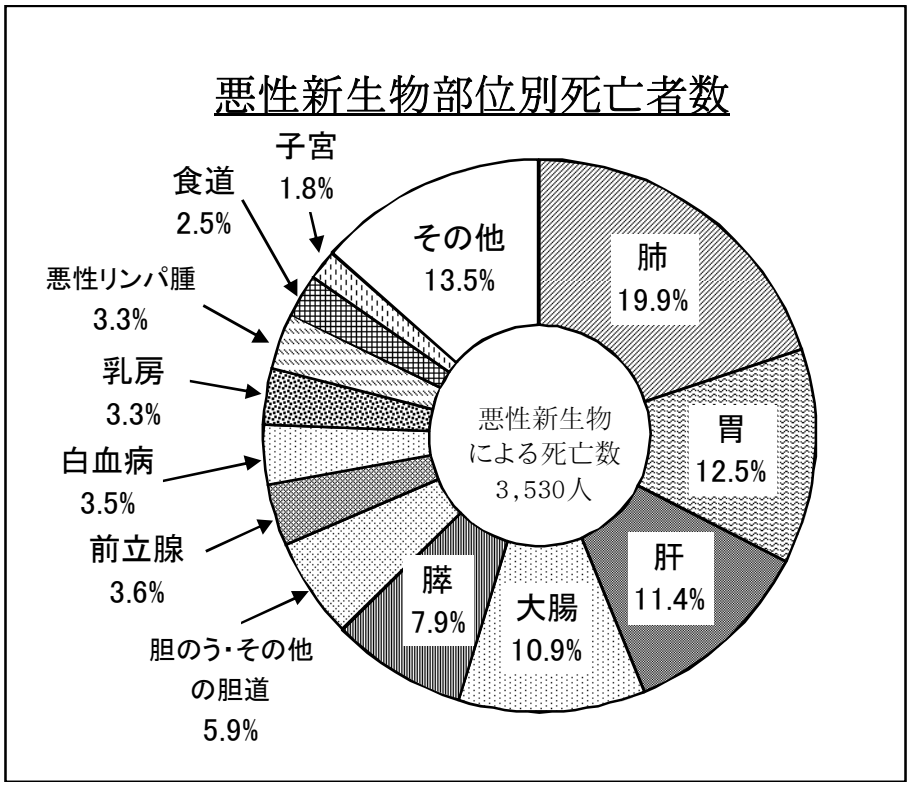


また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは、脳血管疾患（２４人）、自殺（２３人）などであり、増加したのは、心疾患（１６４人）、老衰（４７人）、慢性閉塞性肺疾患（４２人）などである。

主な死因別死亡数・死亡率

死　因	平成20年				平成19年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全死因		12,641	1060.5	100.0		12,188	1019.1	453	41.4
悪性新生物	1	3,530	296.1	27.9	1	3,531	295.2	△ 1	0.9
心疾患	2	1,998	167.6	15.8	2	1,834	153.3	164	14.3
脳血管疾患	3	1,394	116.9	11.0	3	1,418	118.6	△ 24	△ 1.7
肺炎	4	1,277	107.1	10.1	4	1,244	104.0	33	3.1
不慮の事故	5	449	37.7	3.6	5	438	36.6	11	1.1
老衰	6	386	32.4	3.1	6	339	28.3	47	4.1
自殺	7	279	23.4	2.2	7	302	25.3	△ 23	△ 1.9
腎不全	8	258	21.6	2.0	8	247	20.7	11	0.9
慢性閉塞性肺疾患	9	227	19.0	1.8	9	185	15.5	42	3.5
糖尿病	10	181	15.2	1.4	10	148	12.4	33	2.8

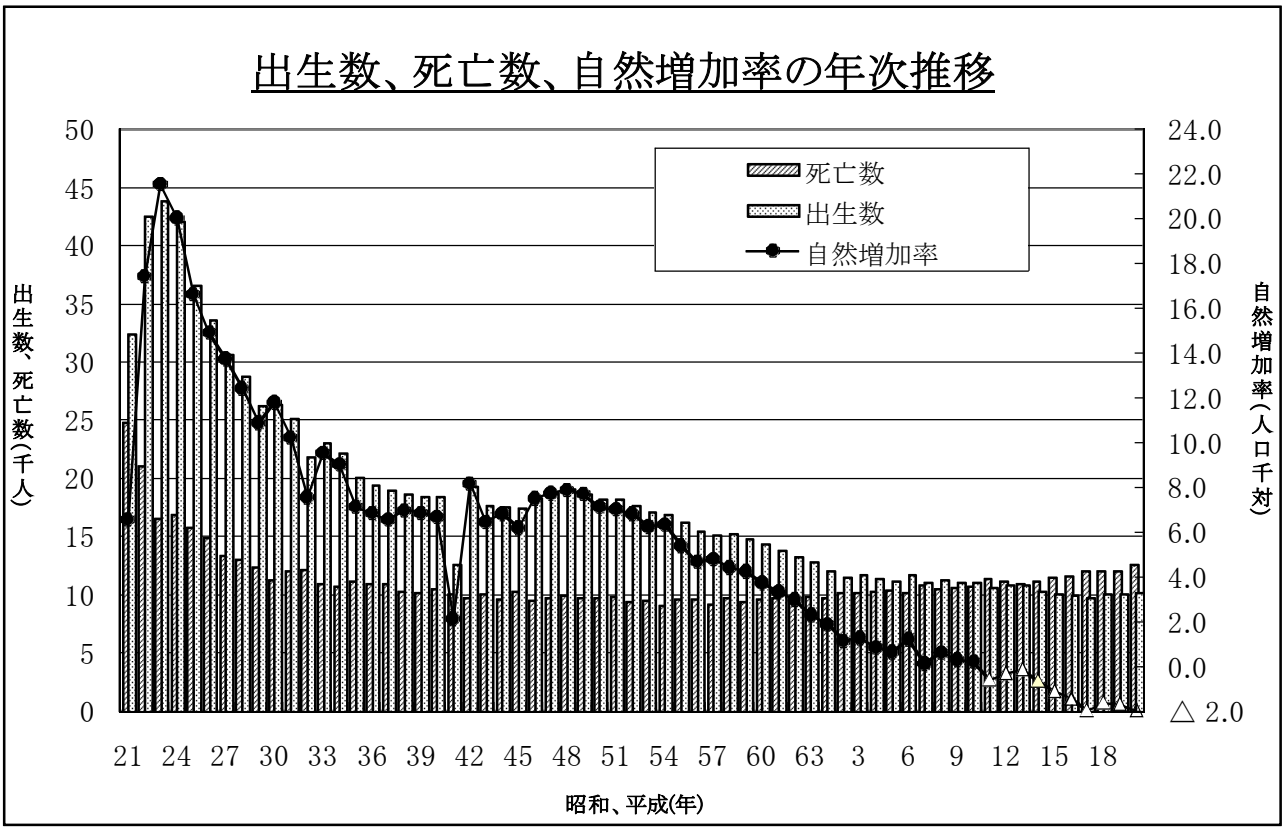
なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（１９．９％）を筆頭に、胃がん（１２．５％）、肝がん（１１．４％）、大腸がん（１０．９％）と続き、この４つで悪性新生物の５４．７％を占める。



４　自然増加

自然増加数（出生数－死亡数）はマイナス２，３３５人で平成１１年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっている。

自然増加率はマイナス２．０と前年のマイナス１．７より減少幅が拡大した。



５　乳児死亡

生後１年未満の死亡である乳児死亡数は、２６人で前年より１人減少した。

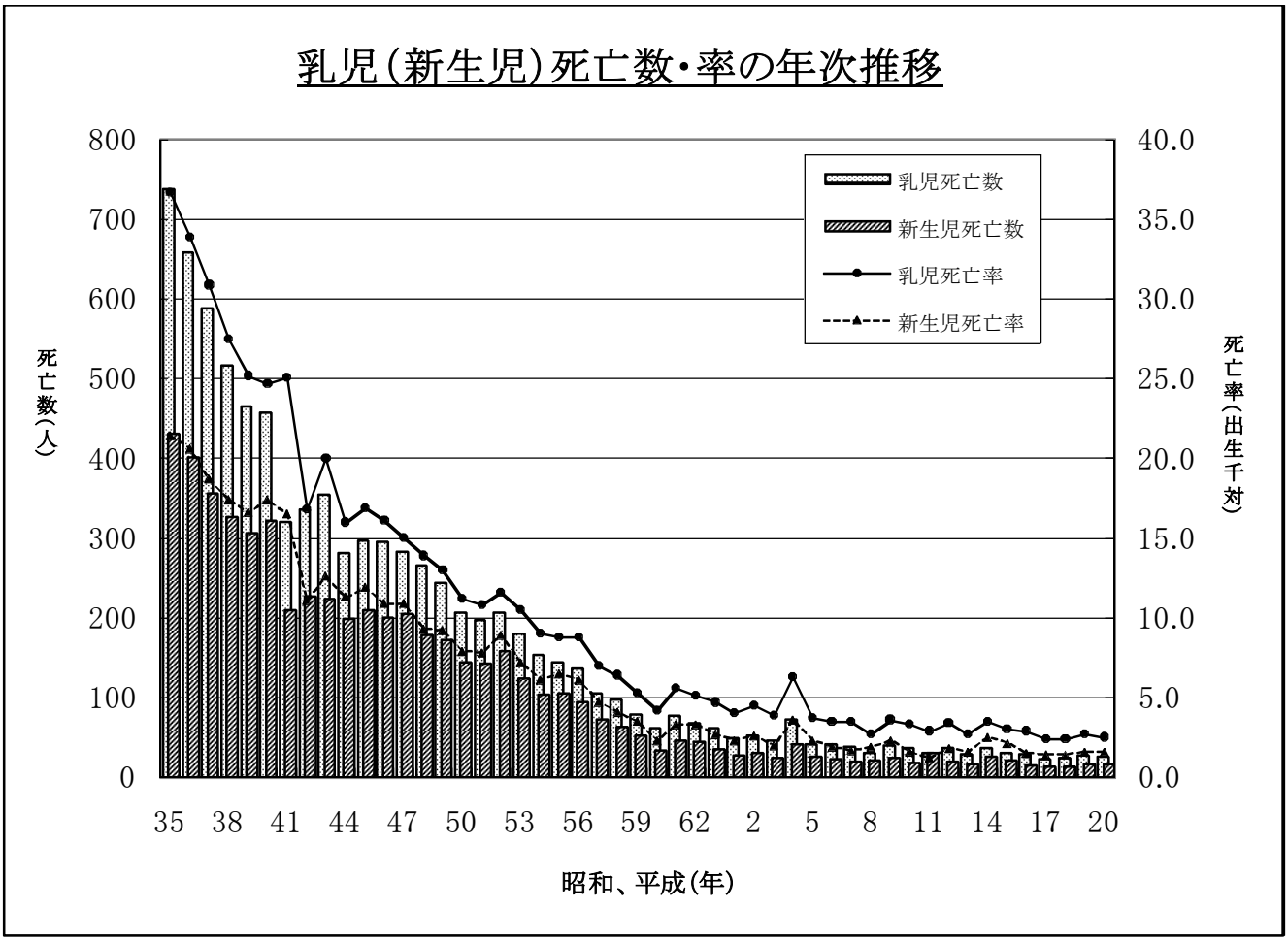
乳児死亡率（出生千対）は、２．５で前年の２．７より減少した。その年次推移をみると、昭和６０年までは急激に低下し、その後は、上昇と下降を繰り返しながら、平成５年以降ほぼ横ばいに推移している。

６　新生児死亡

生後４週未満の死亡である新生児死亡数は、１６人で前年と同様であった。

新生児死亡率（出生千対）は、１．６で前年と同様であった。

その年次推移をみると、乳児死亡と同様の傾向で推移している。

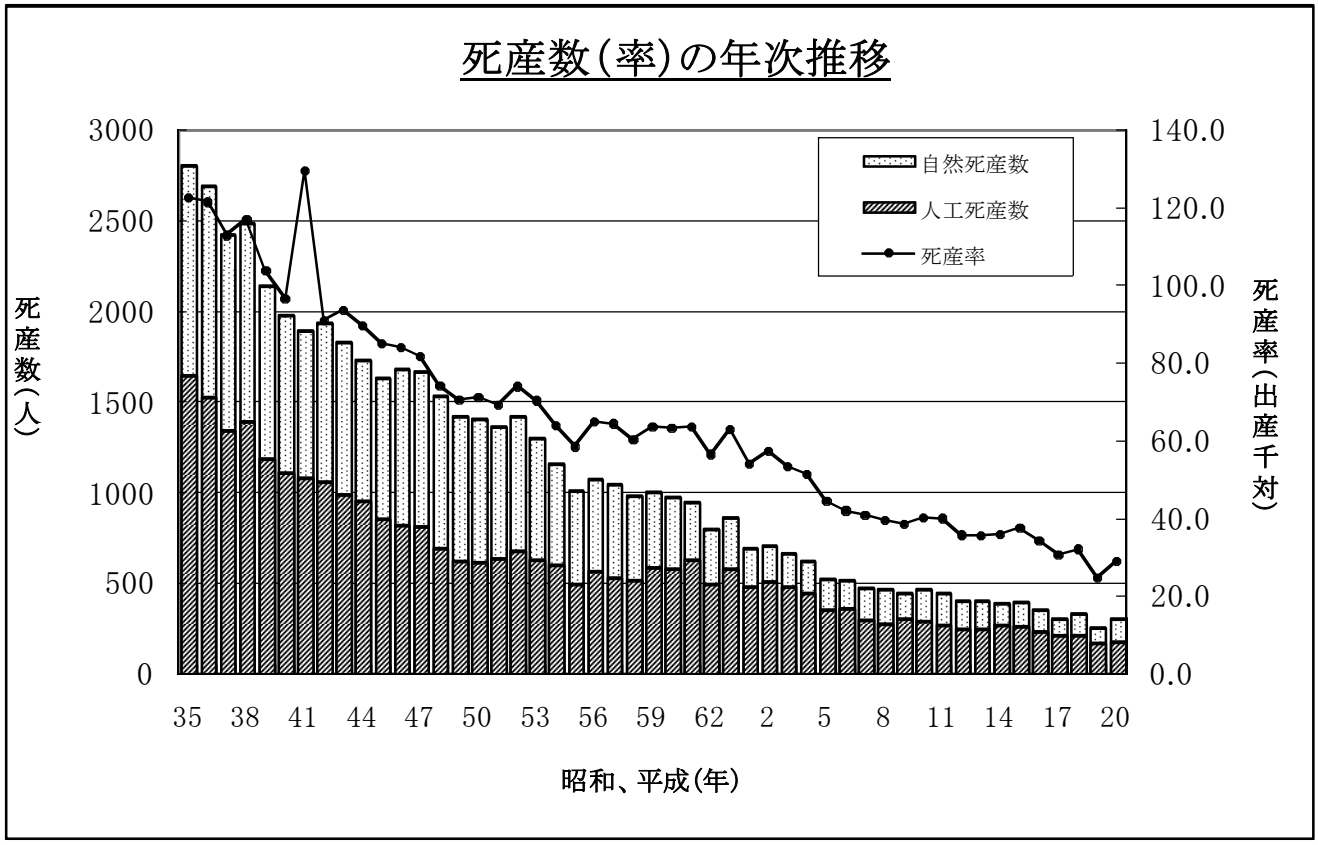


７　死　産

死産数は、３０６胎で前年より４９胎増加した。

その内訳は、自然死産１２７胎、人工死産が１７９胎となっている。

死産率（出産千対）は、２８．８で前年の２４．７より増加した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。

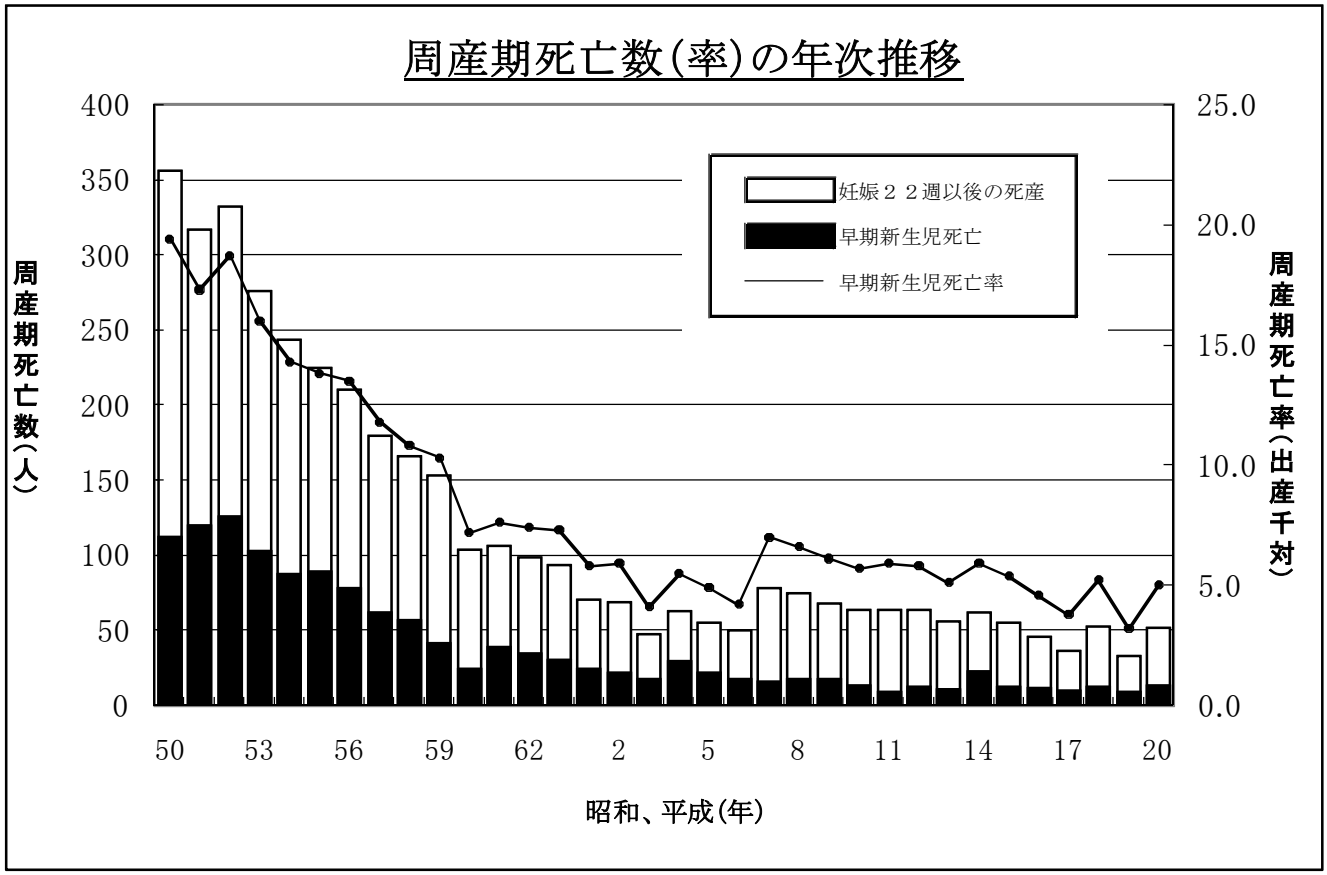


８　周産期死亡

妊娠満２２週以後の死産に、生後１週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は、５２（胎・人）で前年より１９（胎・人）増加した。

その内訳は、妊娠満２２週以後の死産が３８胎、生後１週未満の早期新生児死亡が、１４人となっている。

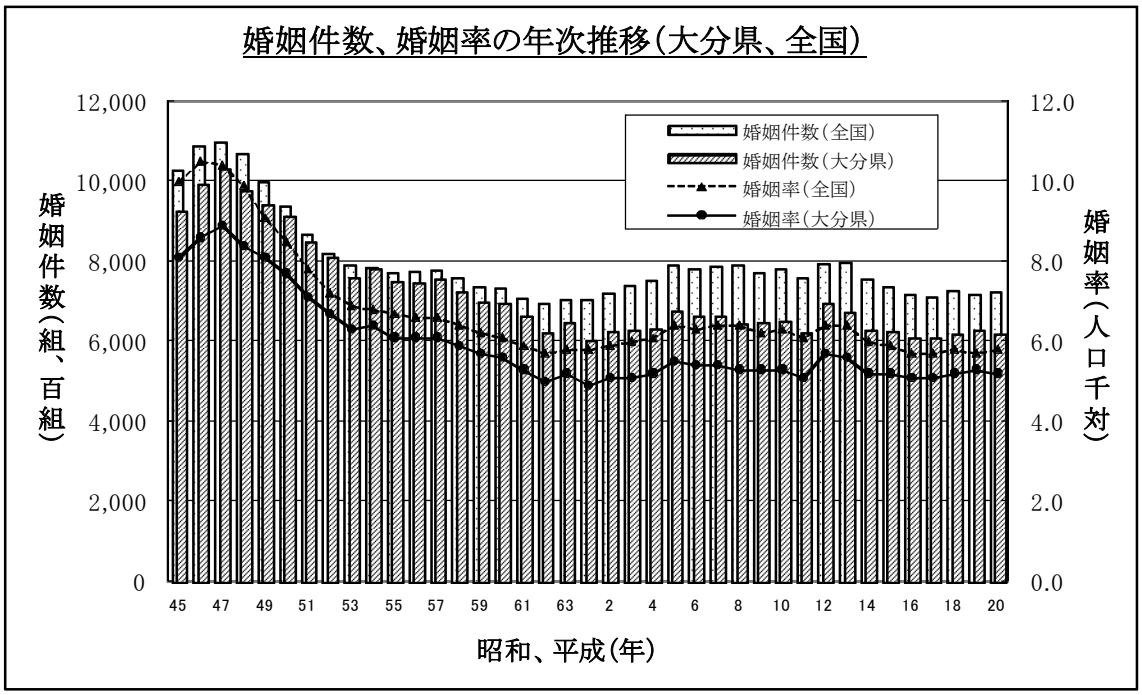
周産期死亡率（出産千対）は、５．０で前年の３．２より増加した。年次推移をみると増減を繰り返しながら、減少傾向にある。



９　婚　姻

婚姻件数は、６，１９７組で、前年より１１４組減少した。

婚姻率（人口千対）は、５．２で前年の５．３より減少した。その年次推移をみると、昭和４８年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。

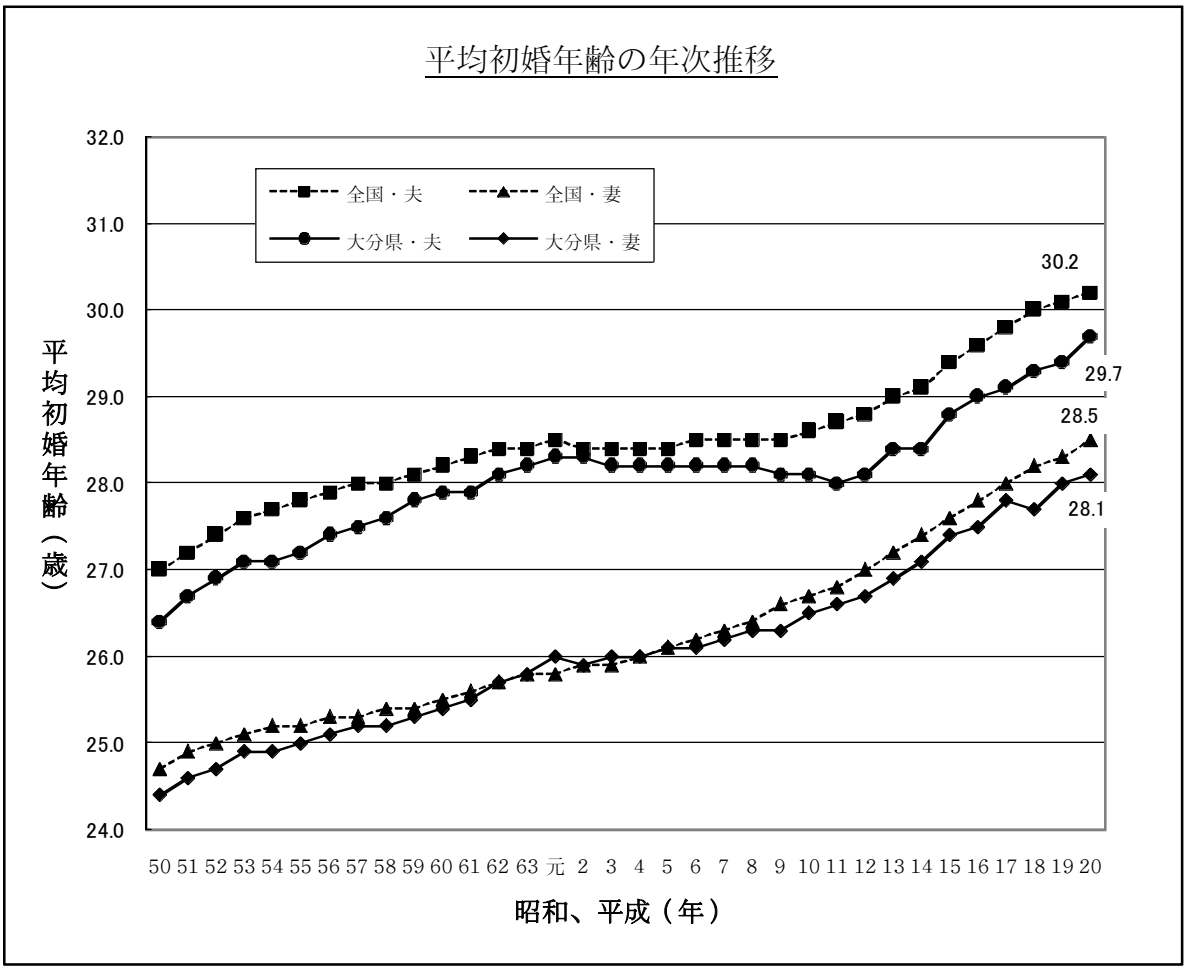


なお、平均初婚年齢は、夫２９．７歳、妻２８．１歳であった。

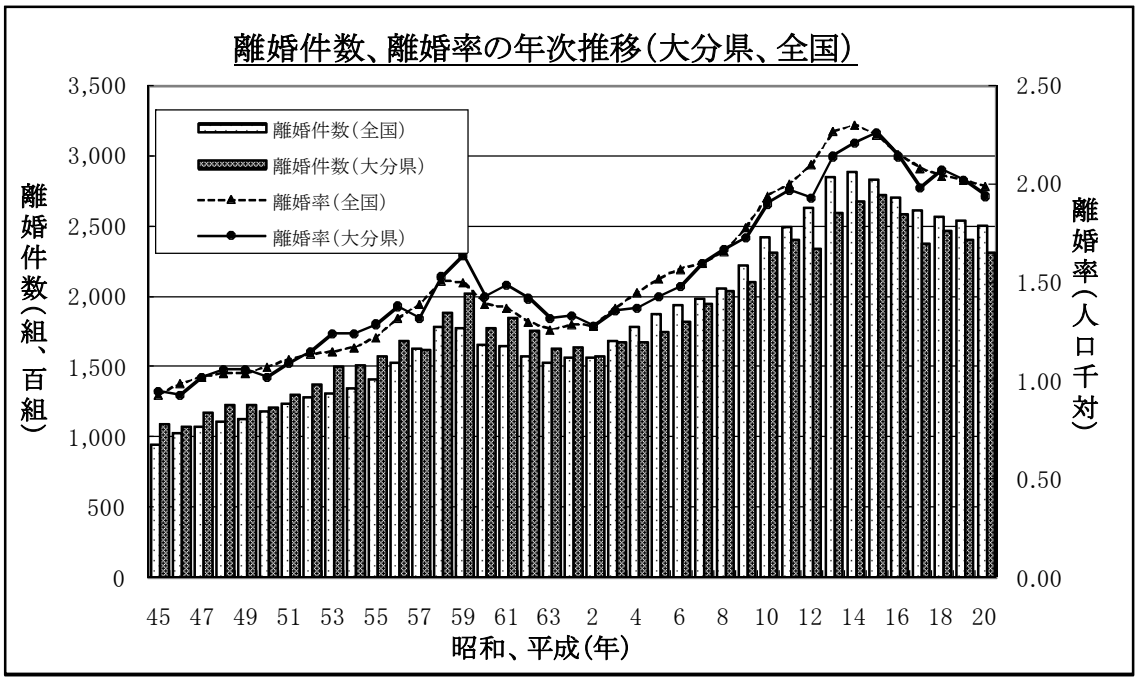
夫については、平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成１３年以降上昇傾向にある。妻については、ゆるやかであるが、ほぼ毎年上昇が続いている。

平均初婚年齢の年次推移

	夫		妻	
	大分県	全　国	大分県	全　国
平成5	28.2	28.4	26.1	26.1
6	28.2	28.5	26.1	26.2
7	28.2	28.5	26.2	26.3
8	28.2	28.5	26.3	26.4
9	28.1	28.5	26.3	26.6
10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5



１０　離　婚

離婚件数は、２，３１８組で前年より９４組減少した。

離婚率（人口千対）は、１．９４で前年の２．０２より減少した。